今日は地震の訓練の予定でしたが、コロナ予防で密を避けるため訓練は中止にしました。それでは、地震の時注意してほしいこと３つ確認します。

１、まず、ぐらぐらっときたら、地震だと思ってください。上から何が落ちてくるかわかりません。「**ゆれがきたら、あたまをまもる**」机の下に入る、何かを頭にあてる。

２、ゆれている間は「**むりに　うごかない**」ゆれが弱くなっても、まだゆれている間は、物が倒れたり、何かが落ちてくるかもしれません。ゆれが落ち着くまで待ちましょう。

３、あぶないところから「**はやく　はなれる**」ゆれがおさまったら、家の中や大きなたてもののそばからできるだけ早く離れて、運動場など広い場所に避難して下さい。

教室でもお話を聞いていると思いますが、２６年前の、１月１７日の神戸・淡路島では、６，４３４名の人がなくなり、１０年前の３月１１日の東北の大地震では、１８，４５５人のたくさんの人がなくなったりしています。命がなくなることが一番つらいことです。

みんなの命は、お父さん・お母さん、またそのお父さんお母さんである、おじいちゃん・おばあちゃん、また、そのお父さん・お母さんというようにたくさんのつながりの中でいただいた大事な命です、その命を守るため毎年、地震の避難訓練をしているのです。

校長先生は２６年前、神戸での地震があった時、猪名川町に住んでいたのですが、そこもかなり揺れました。朝早かったので、まだ寝ていましたが、突然ドーンという多きな音がして、ぐらぐらっと横に揺れた後、家が一瞬下に下がったような気がしました。突然の音と揺れですぐ目が覚めました。食器棚が倒れていました。食器棚の近くでなくてよかったなと、ほっとしました。すぐ学校に行ったのですが、信号は全部止まったままでした。当時、桜ケ丘小学校に勤めていましたが、運動場が割れていて、あらためて大きな地震だったんだなと思いました。周りのお店に行っても、物がとどかないのか、食べ物や品物がほとんどありませんでした。さて、日本は地震のとても多い国で、いつどこで大きな地震がおこるかもしれません。先生や大人の人のいない時におこって、自分で考えて動かないといけない時もあります。いつ大きな地震がきても落ち着いてさっきの、１、頭を守る。２、ゆれがおさまるまで動かない。３、ゆれがおさまったら「広い所にはやくにげる」を、ふだんからできるようにしてほしいと思います。これで校長先生のお話を終わります。